

勢多だより No.87 (2010.6.30)

著者	「勢多だより」編集担当者会議
発行年	2010-06-30
その他の言語のタイトル	Seta dayori No.87 (June 30, 2010)
URL	http://hdl.handle.net/10422/1313

勢多だより

JUN 30, 2010 No.87



平成 22 年度 新入生歓迎号

平成 22 年度入学宣誓式
新任教員紹介

- 平成 22 年度 新入生研修
- 第 35 回浜松医科大学との交流会
- 平成 21 年度 卒業式



勢多だより

JUN 30, 2010 No.87

C O N T E N T S



メインテーマ：「平成 22 年度新入生歓迎」

トピックス

- 01 | 平成 22 年度入学宣誓式
- 03 | 平成 22 年度新入生紹介

新任教員紹介

- | | | |
|----|-----------|-------------|
| 06 | 産科学婦人科学講座 | 喜 多 伸 幸 准教授 |
| 07 | 薬剤部 | 寺 田 智 祐 教 授 |
| 08 | 基礎看護学講座 | 足 立 みゆき 教 授 |
| 09 | 泌尿器科学講座 | 荒 木 勇 雄 准教授 |
| 10 | 地域生活看護学講座 | 上 野 善 子 講 師 |

キャンパスライフ

- 11 | 第 35 回浜松医科大学との交流会
- 12 | 平成 22 年度新入生研修
- 14 | リーダース研修
- 15 | 医師・保健師・助産師・看護師国家試験の結果

図書館からのお知らせ

- 16 | わたしがすすめるこの本

インフォメーション

- 18 | 平成 21 年度卒業式
- 22 | 平成 21 年度学位授与式
- 23 | 平成 21 年度学位論文学長賞等授与式
- 24 | 名誉教授の称号授与
- 24 | 臨床心理士研修コース修了証書授与式
- 24 | 第 33 回解剖体納骨慰霊法要

編集後記 (宮松編集長)

トピックス

平成22年度 入学宣誓式

学 長
馬 場 忠 雄

入 学 式 告 辞

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。キャンパスの整備も一段落し、装いも新たに新入生の皆様をお迎えしています。本日はお忙しい中、平成22年度滋賀医科大学入学式にご臨席を賜りましたご来賓の皆様、ご父兄の皆様、また教職員の皆様、誠に有り難うございます。

本日、医学科98名、看護学科70名の入学生を迎え、キャンパスに若々しい活気が満ちあふれる喜びを感じております。これまで諸君を支えてこられたご両親、ご家族の皆様にお心よりお慶び申し上げます。新入生諸君には、これまで受けた多くの方々のご支援やご協力を忘れることなく、皆様のご期待に応えるべく勉学に励むようお願いしております。

今日、地域医療、とくに地域の公的病院の機能不全や崩壊が起こっています。県内においても深刻な事態が生じつつあります。これには多くの要因、すなわち新臨床研修制度の導入、医局制度の崩壊、医師数の不足、そして医療訴訟や過度な労働環境など、また厳しい環境を回避したいという社会的風潮も背景にあると考えられます。

政府は、医師数の不足に対して、平成22年度においても医学部の定員をさらに増加し、本学では地域枠として5名を増員し、入学定員は115名となりました。この5名には、滋賀県から奨学金を貸与していただきました。

県はすでに、平成19年度から3年生の産科・小児科・麻酔科希望者に、そして研修医にも奨学金を貸与していただき、また、平成20年度から地域枠として奨学金を5名に貸与していただいております。さらに、平成21年度に「総合がん医療学講座」、今年度から地域医療再生計画の一つとして

「地域周産期医療学講座」、東近江医療センターに「総合内科学講座」と「総合外科学講座」を、また本学の「精神医学講座」に講師2名を配置するなど、県内医療の充足に向けた取り組みを行っていたいております。

本学は学問を学ぶにふさわしい緑豊かな自然環境に恵まれ、優秀な教員を揃えており、充実した医学・看護学の教育研究が受けられる体制を整えています。学生諸君が「志」をもってやる気を出すか否かにかかっています。大学生は高校生とは異なり、自律性をもって行動することが求められます。自分自身で何が課題であるかを探し出し、解決する方法を自らが見つけ出す能力を身につけること、また人と人との接点となるコミュニケーション能力を伸ばすように努めて下さい。本学では体育系、文化系のクラブ活動が盛んで、体力や英気を養ってほしいと思います。

医療において、最も基本となるものは、患者の目線で物を考え、行動することですが、医学概論や早期体験実習、全人的医療体験学習として患者宅訪問、また、学生の参加による献体の受け入れ式など、看護学科ではカリキュラムの中心に人間を置いて、全学年を通して倫理的教育の機会を継続的に提供しています。さらに、地域「里親」のもとで、学生が滋賀県内の文化や環境および地域医療に触れる機会を与えています。

そして、第104回医師国家試験では新卒者の合格率は昨年に続いて100%、既卒者を含め99%と高い合格率で全国1位でした。6年間の平均合格率は95.9%で近畿地区医学部、医科大学では1位であります。また、看護師国家試験は全員合格で100%で、大学として大変うれしく誇りに思っております。しかし、保健師94.5%、助産師は開設以来3年間100%が続いていましたが、66.7%であり、対策を考えていただいております。

大学院博士課程に進学された34名、修士課程に進学された13名の皆様、ご入学おめでとうございます。研究の新しい発想は、先人の研究を詳細に検討することから生まれてくるといわれます。そして、考えるばかりではなく、実験してはじめて、その方向性がわかるものだと思います。困難な状況が

生じるかもしれませんが、壁を乗り越えたときに優れた研究成果が得られると期待できます。医学生命科学の分野は日々凄まじい進歩を遂げており、その一角に食い込むように、また、看護の分野においても新しい医療技術の導入とともに、患者のケアが重視され、患者の視点に立った研究成果が期待されています。

大学院教育においては、英語による大学院講義、プロGRESSレポートやポスター発表会、中間発表会などで研究の進展をチェックする体制をとっております。また、動物実験ライセンス制度の導入、実験実習支援センターの活用による研究支援、Teaching Assistant や Research Assistant による教育研究指導の補助、さらに、優秀な研究に対して表彰を行い独創的研究を支援しています。

大学が法人化された平成 16 年から第一期 6 年間の本学の教育研究、社会連携、国際交流、財務、業務などすべての達成度において高い評価を得ることができました。3 月に新聞でも報道されましたように、国立大学法人 86 大学中第 2 位というすばらしい成績をえることができました。これは学生を含む全構成員の一致した努力と協力の賜ものであります。

平成 22 年度から、第二期 6 年がスタートします。SUMS Project 2010-2015「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」を全構成員で実行していきたいと考えています。すなわち、地域基盤型教育 (Society-based Education)、特色ある研究 (Unique Research)、先進医療と高度医療による心あたたまる医療 (Mindful Medical Service) と組織活性化 (Strategic Service) であります。詳しくはホームページに掲載しています。

ところで、本日でたく入学した諸君は、自分が何をやりたいか、どういう方向に進むのかを在学中に見い出し、一旦決定したらいかなる困難も乗り越える強い精神力をもってやり遂げてほしいと思います。2009 年ノーベル医学・生理学賞は米カリフォルニア大サンフランシスコ校のエリザベス・ブラックバーン教授ら 3 名に授与されました。ブラックバーン、ショスタク両氏は 1982 年に酵母などを使った実験で、テロメアの特殊な DNA 塩基配列を発見し、ブラックバーン、グライダー両氏は 1984 年にテロメラーゼを発見したことによる功績で授与されたのであります。ブラックバーン教授とキャロル・グライダー教授の 2 人の女性が同時に受賞したのは自然科学分野では初めてであります。

テロメアとは、染色体のラセン構造体の末端部分を構成しているものです。細胞が分裂・増殖する際には、染色体も複製されますが、体細胞ではテロメアは分裂・増殖するたびに短くなり、限界に達すると細胞が死に、老化の一因となります。ところが、

生殖細胞やがん細胞などでは、テロメラーゼという酵素がテロメアを修復して細胞の老化死を防いでいます。がん細胞でテロメラーゼの働きを止めることができれば、がんの新治療法になると期待されます。ジョンズ・ホプキンス大学のキャロル・グライダー教授はテロメラーゼの働きについて、明らかにしたのです。グライダー氏は 1961 年 4 月 15 日カリフォルニア州において物理学者である父親と生物学者の母親の間に生まれ、6 歳の時母親が他界、父親の自由な学術精神と好きなことに打ち込む姿に大きく影響されました。幼少時ディスレクシア (dyslexia) 書かれた文字を読むことができない識字障害を持つ児であったのであります。父親から「どんなことをしてもよい、それは必ず自分が好きな事でなければならない」と教わったと言っています。グライダーさんは学習障害に対して、様々な手立てを考え、記憶力を高め、集中力を身につけたのであります。グライダーさんは生物に興味を湧き、実験で問題を解決する分野が適していると感じ、カリフォルニア大学サンタバーバラ校生物学科に進んで、実験室に入りびたりの生活を送ったのであります。さらに、同校の大学院に進学し、ノーベル賞の共同受賞者エリザベス・ブラックバーン教授と出会い、1984 年テロメラーゼを発見する、快挙を成し遂げたのであります。1987 年に博士号を取得し、コールド・スプリング・ハーバー研究所でポストドクターとして、さらに、テロメラーゼの研究に取り組んだのであります。1993 年に歴史学者の夫と結婚し、一男一女に恵まれ「仕事と家庭の両立」を見事に成し遂げています。1997 年からジョンズ・ホプキンス大学で教授として活躍しています。「今まで自分で人生を計画したことがない。大学するとき、将来教授になるという考えは毛頭なかった。全て興味と好奇心の赴くままに前進を続けてきた。困難を困難と捉えず、ひたむきに目標に向かって走ってきた。幼少時に培った集中力のおかげで、強い適応力を身につけ、実験の楽しさを味わうために研究を続けてきた」といっています。

興味と好奇心をもって、困難として捉えず、忍耐強く努力することが大切です。

本学の学旗が飾られています。この学章は「さざ波の滋賀」のさざ波と、「一隅を照らす」光の波動を組み合わせたもので、中心に向かって外からさざ波の波動、これは人々の医学への期待を表しています。新入生諸君は「志」を高く持って精進し、信頼される医療人として、また世界に羽ばたく研究者として、「一隅を照らす人」となるべく、本学で自分自身を磨いて大きく成長してくれることを期待し、学長告辞といたします。

平成 22 年 4 月 6 日

新任教員紹介

産科学婦人科学講座



准 教 授
喜 多 伸 幸

2010年2月1日付けで、滋賀医科大学産科学婦人科学講座准教授に就任いたしました。昭和62年、滋賀医科大学の7期生として卒業し、初代教授、吉田吉信先生のもとで産婦人科診療の基礎を学び、二代目教授、野田洋一先生には臨床のみならず学位授与に至る研究の直接指導を賜り、さらに三代目教授、村上節先生のご推薦により現職に就任した次第であります。

私の専門と致しましては、いわゆる周産期医療であります。我が国の周産期医療は、今なお世界の最高水準を維持しており、このことは一重に先達の先生方が、「理想主義的殉教者」ともいえる自己犠牲の下、日々過酷な労働負荷に堪え忍んできたことに他なりません。しかし、皆様もご存じのように、訴訟圧力の増大に伴う精神的・肉体的

負荷、分娩に関わるリスクと固定化した報酬との乖離、新規臨床研修制度導入と2年間の専攻医師の不在、産婦人科医師一人あたりの労働加重の増加などの要因が、産婦人科医師の急速な減少に拍車を駆け、それに伴い分娩施設の閉鎖が相次いでいます。その中、学会、医会も国政と連携して、産科医療保障制度の導入、ハイリスク妊娠分娩管理料の算定、育児手当金の支給額の増加など、多くの施策を具現化し、周産期医療環境の改善に努めているのも事実であります。しかし、産婦人科医師確保を始めとする就労環境の改善は、一朝一夕になせるものでは決してありません。

本学では既に、関係各科と連携した高度周産期医療チーム(旧DIC治療チーム)を発足し、超重症母体疾患の管理に従事するとともに、ハイリスク妊娠の集約化を行うことにより地域医療に貢献することを目的として滋賀医科大学医学部附属病院産科オープンシステムを開設し、より安全な妊娠・分娩管理を行って参りました。これらのシステムのさらなる充実を図り、微力ではありますが周産期医療の向上に寄与していく所存でありますので、皆様方のさらなるご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

経歴

1987年 3月 滋賀医科大学医学部卒業
1987年 6月 滋賀医科大学医学部附属病院研修医
(産婦人科)
1989年 6月 滋賀医科大学医学部附属病院産婦人科医員
1991年 4月 総合病院健康保険滋賀病院産婦人科医員
1993年10月 野村産婦人科 副院長
1995年 8月 滋賀医科大学産科婦人科助手

1998年 2月 社会保険滋賀病院産婦人科医長
2002年 4月 社会保険滋賀病院産婦人科部長
2002年11月 滋賀医科大学産科学婦人科学講座助手
2006年 6月 滋賀医科大学産科学婦人科学講座講師
2006年10月 滋賀医科大学母子診療科講師
2010年 2月 滋賀医科大学産科学婦人科学講座准教授

薬 剤 部



教 授
寺 田 智 祐

2010年2月16日付で、滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部の教授に着任致しました。本学ではまれな薬学出身の教員だと思いますので、これまでの経歴を振り返りながら、現在の薬学あるいは薬剤部の現況についてご紹介したいと思います。

私は、1994年に京都大学薬学部を卒業後、修士課程1年生の時に、京大病院薬剤部研究室(医療薬学、乾 賢一教授)の門を叩きました。薬学部には有機化学や薬理学など基礎的な研究室は多くありますが、当時臨床的な研究を行える研究室はそれほどありませんでした。大学院生の時には、消化管に発現しているペプチドトランスポーター(PEPT1)の研究に従事しました。PEPT1はジペプチドやトリペプチドの腸管吸収を媒介しているトランスポーターですが、構造的に小分子ペプチドと類似した薬物の吸収も担っています。その後、2000年に薬剤部の助手に採用され、PEPT1を始めとする様々な薬物トランスポーターの体内動態制御因子としての役割を明らかにしました。また、2002年には1年間、米国マサチューセッツ総合病院消化器内科へ留学し、腸上皮細胞の自然免疫に関する研究を行いました(消

化器免疫の安藤 朗教授と同じ留学先でした)。

一方、業務面では、2000年に第一外科(現消化器外科)の病棟担当薬剤師となり、患者さんへの服薬指導などを通して臨床経験を積みました。留学から帰国後、製剤掛に配属となり、院内製剤の作製、高カロリー輸液や抗がん剤のミキシングを行うとともに、安全ながん化学療法を実施するためのシステム作りにも関与しました。さらに外来化学療法部の先生方と共同して、当時はまだ日本人における臨床的意義が十分に確立していなかった、抗がん剤イリノテカンの代謝を媒介しているグルクロン酸転移酵素(UGT1A1)の遺伝子多型解析を行いました。その臨床応用となりますが、UGT1A1の遺伝子解析を保険診療として実施するためのオーダリングシステムの構築と薬剤部における運用も整備しました。

2008年からは、助教から副薬剤部長に配置換えとなり、薬剤部全体のマネジメントに関わるとともに、京大病院で5月末日にオープンしたがん病棟(積貞棟)の薬剤部門の設計や運用法の構築などにも関与しました。さらに最近では、経口分子標的抗がん剤の血中濃度解析を通して、安全ながん薬物療法を科学的に支援する研究にも取り組んでいます。

現在、薬学あるいは薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しており、薬学6年制に移行した学生の長期実務実習(11週間)がこの5月よりスタートしました。また、チーム医療の推進が叫ばれる中で、薬物療法や医薬品の安全管理における薬剤師の役割が今まで以上に注目されています。これら社会・医療のニーズに薬剤部としても積極的に応え、滋賀医大における質の高い診療・教育・研究に微力ながら貢献していきたいと思っています。若輩者で至らぬ点も多いと思いますが、諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

経 歴

1994年 3月 京都大学薬学部製薬化学科卒業

1996年 3月 京都大学大学院薬学研究科修士課程
薬品制御システム専攻修了

1999年 3月 同 博士後期課程薬品制御システム専攻修了

1999年 4月 日本学術振興会特別研究員(PD)

2000年 4月 京都大学医学部附属病院薬剤部・助手

2002年 4月 ハーバード大学医学部・

マサチューセッツ総合病院留学

2003年 4月 京都大学医学部附属病院薬剤部・助手

2008年 4月 京都大学医学部附属病院薬剤部・副薬剤部長

2010年 2月 滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部教授・
薬剤部長

基礎看護学講座



教授

足立 みゆき

2010年4月1日付けで、本学医学部看護学科基礎看護学講座に着任いたしました。元々、山陰出身であること、前任校が岐阜大学医学部看護学科だったこともあり、滋賀県の方とお仕事をご一緒させていただく機会はほとんどありませんでした。そのため、今回の異動を機に仕事の輪を広げたいと思っています。

まず、教育課程についてですが、私の専門領域は基礎看護学領域であるため、1・2年生の講義が中心になります。今も、1年生を対象にした、看護学原論という授業を行っています。ほんの数ヶ月前までは高校の制服を着ていた1年生ですが、講義後の感想をみると、看護に対する関心の高さと鋭い洞察力を示しており、高いモチベーションをもって本学に入学してきたことを強く印象づけられます。また、このような学生の看護や学問に対する真摯な態度から私自身が多くのことを学ばせてもらっています。教育の醍醐味はまさにこうした双方向性効果にあるのではないかと実感します。あどけない高校生のような1年生が、学年が進むにつれ、看護職の一員として責任ある行動がとれるようになった姿を見ると、その成長過程に関わった幸せと教育の意義を改めて実感します。学生のモチベーションを低

下させることなく、今まで以上に向上させ専門領域の学習につなげていくために試行錯誤を繰り返しながら教育方法を検討しています。本学へ赴任し、前任校との違いに戸惑うことは多々ありますが、教育者としての私の実績が本学の教育に少しでも貢献できるよう後力して参りたいと思っています。

次に、私の主な研究分野は、看護倫理と基礎看護技術教育の二つです。21世紀を迎え、超高齢化に伴う、保険制度の改革、医療技術の急速な進歩、新たな治療方法の開発など、看護を取り巻く環境は大きく変化しました。その変化に対応するために、ナースには広く、高度な知識と技術が求められ、大学教育化が進められてきました。看護師の倫理的問題をどのように捉えているのかについて、チャンブリス(2002)は「ナースの世界、すなわち病院は一般社会とは全く異なる道德システムをもっている。—中略—一般人にとって身の毛もよだつ残酷物語もここでは生じる専門家の商売なのだ」とし、そうした状況下で、看護師の感情は平坦化し、感受性が失われると述べています。看護師の倫理に関心のある私にとって、この本は多くの示唆を与えてくれました。実際に調査をしたところ、チャンブリスが分析したようなことが日本の看護師にも同じように影響していたことがわかりました。今後は、看護師の倫理的感受性を向上できるような教育方法等を検討することで、看護の質の向上に何かしら貢献できればと思っています。

また、看護技術教育についても、単なるHow Toではなく、Evidenceに基づいたものであることはもとより、看護の対象一人一人の「個」に焦点を当てた看護技術の修得を目指して教育方法を検討したいと思っています。

最後になりましたが、教員としても、研究者としてもまだまだ未熟な者ですが、皆様より一層のご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

* ダイニエルF・チャンブリス著、浅野祐子訳：「ケアの向こう側 看護職が直面する道德的・倫理的矛盾」日本看護協会出版界、2002。

経歴

1986年 3月 鳥取大学医療技術短期大学部看護学科 卒業
1986年 4月 鳥取大学医学部附属病院看護師採用
1994年 4月 鳥取大学医療技術短期大学部助手転任
1997年 4月 鳥取大学医学部附属病院看護師転任
2000年 3月 慶応義塾大学文学部哲学専攻
(通信教育課程)卒業(～1994年10月)
2001年 4月 鳥取大学医学部附属病院副看護師長昇任

2002年 3月 島根大学大学院人文社会科学法学専攻(修士課程)
修了(～2000年4月)
2002年 4月 岐阜大学医学部看護学科助手転任
2005年 4月 岐阜大学医学部看護学科講師昇任
2007年 3月 大阪大学大学院医学系研究科保健学(博士後期課程)
単位取得後退学(～2004年4月)
2007年 4月 岐阜大学医学部看護学科准教授昇任
2010年 4月 滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座教授就任

泌尿器科学講座



准教授
荒木 勇雄

本年4月1日付で、泌尿器科学講座准教授に着任いたしました。2001年より山梨大学医学部に勤務し、2005年から准教授を務めてきましたが、9年ぶりに故郷である関西への復帰となりました。それ以前、若かりし時には約6年間大津市民病院に勤務しておりましたので、滋賀・大津に久しぶりに戻ってくることができて大変嬉しく思っております。

京都大学医学部附属病院泌尿器科(吉田修教授)に入局し、岡田裕作先生(滋賀医科大学教授)をはじめとした錚々たる先生方の叱咤激励のもとで医師生活を開始しました。その後、大学院進学までの9年間は、市中病院の責任ある立場で臨床の最前線に身を置き、悪性腫瘍を中心とした診療、特に新たな手術治療の習得に専心して参りました。

た。その間も、なぜか排尿障害に興味を惹かれて、京都大学大学院医学研究科に入学し、生理学教室で久野宗教授のもと、高橋智幸先生や岡田泰伸先生など先進的な先生方に囲まれてパッチクランプ法を中心とした神経生理学を学び、学位取得後は米国(de Groat教授)で仙髄排尿反射中枢におけるシナプス伝達に関して2年間研究を続けました。帰国後の6年間は、再び市中病院での診療に専念しておりましたが、排尿障害に関する臨床研究の報告だけは続けておりました。

山梨大学に赴任した後は、教室員の協力を得て下部尿路機能障害や女性骨盤底障害(腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱)などに関する臨床研究および膀胱知覚伝達におけるイオンチャネルの役割に関する基礎的研究において一定の成果を収め、世界的にも多くの情報を発信することが出来ました。また、ウロダイナミクス検査外来や女性泌尿器外来を新設して、新たな患者層の開拓にも尽力して参りました。今後、滋賀医科大学泌尿器科にて培われてきた尿路結石、尿路変向術、体腔鏡手術、小児泌尿器科などの診療に学びつつ、微力ながら新たな領域の開拓に貢献できるよう努力致したいと考えております。若い先生方も多く、活気にあふれた教室で、これからどんな面白いことができるのか胸を膨らませておりますが、凡才につき諸先生方のご指導ご鞭撻を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

経歴

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1980年 3月 群馬大学医学部医学科卒業 | 1996年 9月 国立療養所宇多野病院(泌尿器科医長) |
| 1980年 6月 京都大学医学部附属病院(研修医) | 1998年 3月 京都大学医学部 |
| 1981年 6月 公立小浜病院(泌尿器科医員) | (臨床助教授: ~ 2000年3月併任) |
| 1983年 6月 大津市民病院 | 2000年 4月 西神戸医療センター(泌尿器科医長) |
| (科長代理; 泌尿器科副医長 ~ 平成元年3月) | 2001年 4月 山梨大学医学部附属病院(泌尿器科講師) |
| 1993年 3月 京都大学大学院医学研究科博士課程修了(京大医博) | 2005年 9月 山梨大学大学院医学工学総合研究部 |
| 1993年 4月 京都大学医学部附属病院(泌尿器科助手) | (泌尿器科学准教授) |
| 1993年11月 米国ピッツバーグ大学医学部(客員助教授) | 2010年 4月 滋賀医科大学医学部(泌尿器科学准教授) |
| 1995年11月 浜松労災病院(泌尿器科医長) | |

地域生活看護学講座



講 師
上 野 善 子

2009年9月16日より、本学地域生活看護学講座の特任助教として勤務させて頂いておりましたが、2010年4月1日から看護学科の教員として迎えて頂きまして、深く感謝しております。日々、多くの先生方から数々のご教示を頂きながら、今後も、更に質の高い教育と研究に貢献するべく努力させて頂く所存です。

これまで、私は病院・保健所勤務を経た後、専門学校や大学などの教育機関で保健・医療・福祉分野に関わる講義や実習指導等の経験を積みながら、多くの学生の方と関わり教育実践に携わってきました。中でも、本学で担当させて頂きます「在宅看護学」と「家族看護学」は念願の科目ですが、それは私自身の経験に基づいています。

私には一人娘がおりますが、彼女は乳児期から何度も喘息発作を起こし、生死を彷徨う体験をしてきました。娘は闘病生活が大層辛かったと思い

ますが、私も親として、不安やせつなさで一杯でした。このような経験から、たとえ疾病や障害を負っていても、すべての人が住み慣れた「家」で、「家族」と「健康」に暮らせることが最も大切なことと実感しました。地域看護は高齢者や療養者だけが対象者ではなく、赤ちゃんからお年寄りまで、全ての家族や地域の人たちを対象者とし、健康に生活がおくれることを支援する役割があると考えます。

さて、看護学科での教育については、とりわけ学生の知的好奇心が満足できるような講義を目指しています。国家資格取得を目指す教育を提供することは大切ですが、学生は個性と活力に溢れた学生生活を送ることができ、将来、人の「こころ」に寄り添うことができる看護実践者となるべく教育を提供することが最も重要と考えています。そして、私自身も「共に歩む」姿勢を持ち、今後も実践的力量を高め続けることが必要と考えています。

私はこれまで、アメリカ合衆国ハワイ州のコミュニティ・ケアの研究を行ってきました。自然に対する「感謝」の気持ちと「許す心」を守る「オハナ文化」は、友人や隣近所の人たちを巻き込み、地域で子どもたちと家族を支える基盤となっています。今後も積極的に研究に取り組みたいと考えています。

私自身の力量は微力ではありますが、これまでの教育実践と研究の経験を役立て、今後も貢献させて頂きたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

経 歴

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1992年 4月 奈良県立保健婦学院（～1993年3月） | 2008年 3月 奈良県立医科大学医学部看護学科 |
| 1993年 4月 奈良県保健所保健師（～1996年3月） | 地域看護学領域 助教（～2008年10月） |
| 1998年 4月 保健医療福祉関連の専門学校・大学等 | 2009年 3月 立命館大学産業社会学部社会福祉 |
| 非常勤講師など（～2006年3月） | 実習指導室 主事（～2009年9月） |
| 2004年 3月 立命館大学大学院社会学研究科 | 2009年 9月 滋賀医科大学医学部看護学科 |
| 博士前期課程修了（社会学修士） | 地域生活看護学講座 特任助教 |
| 2004年 3月 奈良女子大学大学院人間文化研究科 | 2010年 4月 滋賀医科大学医学部看護学科 |
| 博士後期課程（～2010年休学中） | 地域生活看護学講座 講師 |

キャンパスライフ

第35回 浜松医科大学との交流会

去る5月14・15日の2日間、浜松医科大学において第35回浜松医科大学との交流会が行なわれました。出発前は小雨の降る中で壮行会を行いました。その後、馬場学長、服部副学長以下教職員の引率と300名近い学生がバスに乗り込み、出発しました。

交流会は2日間とも透き通るような快晴のもと、グラウンド、体育館、武道館等では熱戦が繰り広げられました。対戦成績は9勝4敗で、昨年に続いて本学の総合優勝となり、優勝杯を持ち帰ることができました。通算成績も本学の17勝13敗5引き分けとなりました。



第35回 浜松医科大学との交流会を終えて

浜松医科大学交流会委員長 医学科第4学年
小林 知 晃

まず始めに、交流会を開催するに当たりご尽力いただきました先生方、職員の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

浜松医科大学へと出発する前の壮行会にて、馬場学長から浜松医科大学との交流会を行うに至った経緯についてお話がありました。そのお話によると、この交流会は、浜松医科大学の学生が本学の学生の呼び掛けに応じて始まった、ということで、あくまで学生が自主的に開催している行事です。私は、学生主導で一つの行事を行うということの大変さをこの交流会を通じて痛烈に感じました。

本年度は、一昨年と異なり、金土の開催となりました。そのため、授業の関係で参加者全員が一緒に出発することができませんでした。そのような状況下でどのようにすれば、沢山の学生に参加してもらえるか、多くの方の協力を得ながら最善の策を模索しましたが、結果、一昨年以上の人数の方が参加することができました。

私は、今回の経験から、学生主導で積極的に行うことによって学生生活をより良いものへと変えていくことができると確信するとともに、本学はこのような学生主導で行うことに対して学生課を始めとする教職員の方々がサポートする体制が整っているということを知りました。ですから、私たち学生が助けを借りながらもっともっと積極的に自身の学生生活をより良いものにしていくべきだと思い、そのことをこの場を通じて伝えたいと思います。

最後になりましたが、今年度の浜松医科大学との成功は、沢山の方々の協力なしにはなれません。改めて厚く感謝申し上げます。

体育会長 医学科第4学年
田 中 智 基

最初に、第35回浜松医科大学・滋賀医科大学交流会を開催するに当たり御尽力頂きました、学生課・生協の方々、先生方、職員の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私が入学して4回目の浜松医科大学との交流会でしたが、今回は体育会長として参加させていただきました。伝統あるこの交流会を体育会長として仕切れるか非常に不安でしたが、交流会委員長の小林君、各部のキャプテンの協力によって何とか乗り切ることができ、今は感謝の気持ちでいっぱいです。ご協力本当にありがとうございました。

体育会長としてはやはり交流戦総合優勝という目標を胸に滋賀を出発しました。浜松に到着すると驚くほど多くの学生が出迎えてくれたことが非常に印象に残っています。競技では天気にも恵まれ持っている力を思う存分発揮できたと思います。各部全力を尽くした結果、通算17勝目をあげることができました。レセプションでは大学の垣根をこえ皆が楽しく交流を深めているのを目にし、この交流会が30年以上続いている意味が分かったような気がしました。

2日間大きな事故もなく、勝利で終えることができ本当に良かったと思います。後輩たちには今後もこの交流会を続けていってほしいと思います。

競技結果



平成22年度 第35回滋賀医科大学－浜松医科大学交流会 競技結果

平成22年5月14日(金)～15日(土)

種 目		滋 賀	浜 松
硬 式 庭 球	男	4 - 6	○
	女	5 - 0	○
サ ッ カ ー		1 - 4	○
準 硬 式 野 球		○	11 - 5
バスケットボール	男	○	69 - 59
	女	○	56 - 54
バレーボール	女		0 - 2 ○
バトミントン	男		2 - 3 ○
	女	○	4 - 1

種 目	滋 賀	浜 松
ヨ ッ ト	○	-
ボ ー ト	○	-
ハンドボール	○	28 - 22
空 手 道	△	引き分け △
ゴ ル フ	○	424 - 456
総 合 結 果 滋賀医科大学 9 対 4 浜松医科大学 1 引き分け		

※通算(滋賀医科大学)17勝13敗5引き分け

平成22年度 新入生研修

4月の8・9日の両日、近江八幡休暇村等において、平成22年度の新入生研修が医学科、看護学科の新入生及び引率教職員総勢180名余の参加により行なわれました。初日、休暇村に到着後は4月にもかかわらず少し肌寒い中ではあるものの透き通るような快晴となり、大自然の中での飯盒炊爨に始まり、講演では卒業生の村下先生による「滋賀の魅力」、班別懇談会や人権学習、2日目は瀧川看護学科長による「煙害等」の講習、弁護士の方を講師に招いてのリスクマネジメント講習、陶芸体験など中身の濃い2日間となりました。

新入生研修に参加して

医学科 第1学年 山中 健志郎

私は、この研修に対して、始まる前と終わってからでは大きく見方が変わりました。行く前は内心、研修などせずに早く授業を始めた方が良いと思っていましたが、今ではこの研修が大学生活を始めるための踏み切り台として、かなり大切な役割を果たしていると感じました。この理由はいくつかあります。

ひとつは、飯盒炊飯などの、いわゆるお楽しみ系のイベントにより、これから4年間あるいは6年間で共にする仲間とどのような人柄の学生がいるかを理解し、打ち解けあうことが出来たことであります。これから切磋琢磨し合って向上していく上で、このことは非常に大きな意味を持っていると私は思います。

さらに、研修中の講義も我々が大学生生活を始めるのに、ためになることが数多くあったと思



ます。例えば、田渕五十生教授による人権学習では、普段あまりしないような斬新とも言える切り口で人権の問題について教えてくださり、人権や多文化社会というものの一端を知ることが出来ました。また、瀧川看護学科長による講義によりタバコの有害さやドラッグの恐ろしさについて再認識することが出来ました。

今回の研修は私にとってとても有意義なものになりました。私の後輩の代でもこの行事が続いて行けば良いと思います。

医学科 第1学年 石川 清香

入学して3日後にいきなり合宿があるということを、入学手続き書類に同封されていた案内で知り、正真本当に驚きました。

ですが、実際に参加してみて、多くの友人ができ、とても良かったと思いました。内でも特に印象的だったのは飯盒でした。初めて話す人達とグループになり、火をつけたり、野菜を切ったり、カレーとご飯が出来あがるころには、みんなすっかり仲良くなっていました。また、懇親会では、色んな人の医師や看護師に対しての思いを聞くことができ、改めて、これから始まる6年間でしっかりとがんばっていききたいと思えることができました。

陶芸では、作り方にも作品にも、みんなそれぞれの個性がでて、とても楽しい思い出になりました。



医学科も看護学科もあれだけ一緒に仲良くなれるチャンスはあまりないと思うので、そういう意味でも合宿で仲良くなった友情を大切に、これからの大学生活も楽しく充実したものになりたいと思いました。

看護学科 第1学年 角 田 響 介

「研修合宿？」スケジュール表を見た私は驚きました。さらに、大阪から滋賀医に来ていた私は、友達もほとんどおらず当日まで不安ばかりが募っていきました。

しかし、いざ合宿が始まってみると、飯盒のカレー作りの時から徐々に友達ができ、しだいに次のスケジュールが楽しみになっていきました。

中でも、最も印象に残っているのは、夜の自由時間です。1つの部屋に多くの人が集まり、医学科・看護科問わず様々な人と交流し、一気に友達



が増えました。中には、福岡や名古屋から来ている人もいて、方言の話などで盛り上がりました。そうこうしているうちに夜は更けていき、翌日はすっかり寝不足でした。

次の日は、眠い目をこすりながら多くの話を聞いたので、ほとんど記憶にありませんが「滋賀の魅力について」などこれからの大学生活が楽しみになるような話もありました。

とにかく、この合宿では多くの友達ができ、ことが大きかったように思います。合宿に参加したことでこれからの大学生活がより楽しみになり、勉強の意欲も沸いてきました。来年度の入学生も必ず参加して、多くの友達を作ってほしいと思います。



看護学科 第1学年 緒 方 梨 乃

入学して三日、何もかも分からない状態での医看合同の研修旅行。

福岡出身の私は一人も知り合いがいなかったため、心待ち、というより不安のほうが大きかったように思います。「二日間、一人っきりだったらさみしすぎる…」と、心配ばかりしていました。

しかし、ふたを開けてみると杞憂に過ぎず、修学旅行のような雰囲気ですぐ打ち解け、安心と同時に旅行を楽しむ余裕が生まれました。

一日目のお昼には、小学生のように飯盒炊爨で盛り上がりました。作り方で一悶着！起こした火の煙に涙を流しながらも、予想外においしく出来上がり完食。おなかを満たしたところで、先生や卒業生の先輩の講義を聴き、懇談会ではグループに分かれて自己紹介をしました。夕食後は皆でトランプや UNO で騒ぎ、医看・男女・年齢問わずに交流でき、笑いの絶えない時間でした。

翌日は「煙害について」「リスクマネジメント」などのお話があり、改めて一人暮らしの大学生活、気を引き締めようと思いました。昼からの陶



芸では土相手に奮闘し、皆のセンスに笑いが起きたりアドバイスをもらったりと楽しいひと時を過ごしました。

たった一泊二日の旅でしたが、たくさんの新入生同士の出会いと交流・大学生活を送るためのアドバイスをいただいた講義・陶芸家気分になった水蒸焼体験、盛りだくさんな研修旅行でした。これから一緒に勉学に励み、楽しいことだけでなく苦しく辛いことも一緒に乗り越えていくことになる仲間と、親しくなるきっかけ、機会をいただきありがとうございます。

新入生研修に参加して

看護学科 第3学年編入 小林 恭子

私は、つい先日まで臨床で働いていました。新たな目標があり、3年次の編入を決めたのですが、入学式後の予定を見たときは宿泊研修の文字に驚きました。授業がすぐに始まると思っていたし、特に飯盒炊爨や陶芸といった内容は中学生以来で、初対面の仲間とどのように接しながら過ごすことになるのかとても不安でした。

しかし、不安はすぐに払拭されました。非日常的な体験を初対面の仲間と経験することで、様々なふれあいが生まれ、そこから何故この道を選んだか、どういう経緯をたどってここにたどり着いたかなどを話すことができました。それは、私にとって看護師になりたての時の気持ちを思い出さ

せるものがあり、また、新たな目標に向かって進んでいく自分にとっても刺激になるものでした。

これから、ここで出会った人たちと切磋琢磨して、それぞれの夢に向かって刺激し合える関係になれるといいなと思いました。



リーダーズ研修実施

本学ではサークル活動を有意義に発展させるため、リーダーとしての自覚と認識を高めると共に、各サークルの相互理解を深めることを目的とし、3月3日(水)の13時からクリエイティブモチベーションセンターにおいて、体育会系、文化会系の各課外活動団体の代表者(キャプテン)35名と班別討議でのアドバイザーとして野坂麻酔医学講座教授他計8名の教員が参加し実施した。

当日は服部副学長の開講挨拶にはじまり、本学第2期生の江口豊救急集中治療医学講座教授による急性アルコール中毒や救急蘇生に関する講演や同じく第12期生の朴真紗美氏による「リーダーとして、人として」と題した講演があり、また班別懇談会では自ら提案したテーマについて各班で現状や問題点について話し合うなど充実した内容の半日間となった。



リーダーズ研修に参加して

文化会会長 医学科第4学年 野村 詠史

3月3日の午後、本学の体育会および文化会に属する団体の代表者が一同に会し、リーダーズ研修が行われました。比較的最近に始まったというこの研修ですが、特定の行事などによらず純粋に団体代表者として議論をする場は何気に少なく、各リーダーたちも活発に発言していました。

前半は救急集中治療医学講座の江口教授による講習。団体活動中の様々なトラブルに対してリーダーは常に冷静に対処し、また構成員の安全を確保しなければならないことを再確認させられました。続いては本学OGの朴先生による講演です。リーダーを拝命するにあたって心がけるべきこと、主に体育会系団体のリーダーに向けたお話でしたが文化系にも当てはまることはたくさん見受けられ、参考になりました。

後半は小グループに分かれての班別討議。我々文化会メンバーは最近建設されたCMCの管理方法や文化会としてのスタンスなどについての議論。今後の文化会のあるべき姿をめぐって激論が交わされました。文化会は体育会に比べて結び付きが弱く、文化系団体の意見を対外的に発信できる場がないという現状に対する不満が述べられ、文化系団体の代表としての文化会をもっと強固なものにしようという方向で議論は決着をみました。

研修会の後は病院食堂にて交流会が行われ、各々リーダーの抱える悩みなどがあちらこちらで分かち合われたようでした。

本学に存在するたくさんの団体がさらに活発に活動できるよう、このような研修会が継続されることを期待いたします。

医師・保健師・助産師・看護師国家試験の結果

第104回医師、第96回保健師、第93回助産師、第99回看護師の各国家試験の合格発表が平成22年3月に行われ、滋賀医科大学の合格状況は次のとおりでした。医師及び看護師の新卒者の合格率は、いずれも100%（医師は2年連続、看護師は既卒者も）と素晴らしい結果でした。また、医師国家試験の合格率（既卒者を含む）では、全国1位に輝きました。

第104回 医師国家試験

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	102名	102名	102名	100.0%	全国 受験者 8,447名 合格者 7,538名 合格率 89.2%
既卒者		2名	1名	50.0%	
計		104名	103名	99.0%	

参考 前回(第103回)医師国家試験の結果

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	94名	94名	94名	100.0%	全国 受験者 8,428名 合格者 7,668名 合格率 91.0%
既卒者		6名	3名	50.0%	
計		100名	97名	97.0%	

第96回 保健師国家試験

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	73名	73名	69名	94.5%	合格率(全国) 86.6%
既卒者		0名	0名	0.0%	
計		73名	69名	94.5%	

参考 前回(第95回)保健師国家試験の結果

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	68名	67名	67名	100.0%	合格率(全国) 97.7%
既卒者		1名	1名	100.0%	
計		68名	68名	100.0%	

第93回 助産師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	12名	8名	66.7%	合格率(全国) 83.1%
既卒者	0名	0名	0.0%	
計	12名	8名	66.7%	

参考 前回(第92回)助産師国家試験の結果

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	10名	10名	100.0%	合格率(全国) 99.9%
既卒者	0名	0名	0.0%	
計	10名	10名	100.0%	

第99回 看護師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	63名	63名	100.0%	合格率(全国) 89.5%
既卒者	1名	1名	100.0%	
計	64名	64名	100.0%	

(注) 新卒者中10名は3年次編入学者で、既に合格済み。

参考 前回(第98回)看護師国家試験の結果

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	58名	57名	98.3%	合格率(全国) 89.9%
既卒者	1名	1名	100.0%	
計	59名	58名	98.3%	

わたしがすすめるこの本

新入生、新入職員のみなさん、ようこそ滋賀医科大学へ！

これから本学で学び、研鑽を積んでいかれるみなさんに、本学の先生方・病院で医療に携わる方々から、おすすめの本を紹介していただきました。

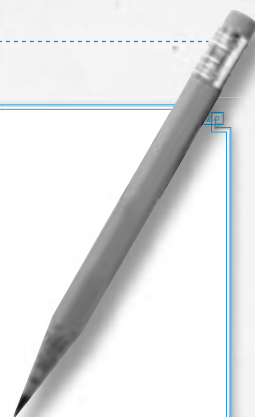
先輩学生・職員のみなさんには、先生方の意外な一面が見られるかもしれません。ぜひ、読んでみてください。



馬場 忠雄 学長

大学で教養部が廃止され、今、一般教養（リベラル・アーツ）の重要性が見直されています。色々なジャンルの本を読んで、感じ、考え、批判する力を身につける機会を作ってください。

- 平静の心：オスラー博士講演集 W. オスラー[述] 医学書院
- 考へるヒント 小林秀雄著 新潮社
- 脳 死 立花隆著 中央公論社



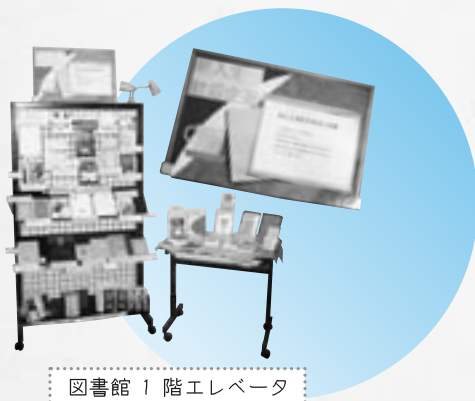
服部 隆則 副学長
教育等担当理事

- 癌細胞はこう語った：私伝・吉田富三
吉田直哉著 文藝春秋
- 医学用語の起り
小川鼎三著 東京書籍

- インスリンの発見
マイケル・プリズ著 堀田饒訳 朝日新聞社
- 城 砦
A.J. クローニン著 竹内道之助訳 三笠書房
- セレンディピティー：思いがけない発見・発明のドラマ
R.M. ロバーツ著 安藤喬志訳 化学同人



柏木 厚典 副学長
病院長・医療等担当理事



図書館 1 階エレベータ
横でミニ展示しました



藤野 みつ子 部長
看護部

- 家出のすすめ
寺山修司著 角川書店
- 人形の家
イブセン著 岩波書店
- 三国志
吉川英治[著] 講談社
- 蟬しぐれ
藤沢周平著 文藝春秋

☆推薦していただいた本は、図書館にあります。（*印の1冊を除く）
OPAC（オーパック）で検索してみてくださいね！

新入生歓迎企画



川北 素子 准教授
数学

- 論 語 金谷治訳注 岩波書店
- 戦争と平和 トルストイ著 岩波書店
- 遥かなるケンブリッジ：一数学者のイギリス
藤原正彦著 新潮社

- アラビア遊牧民/カナダ=エスキモー /
ニューギニア高地人 本多勝一著 朝日新聞社
- 忘れられた日本人 宮本常一著 岩波書店
- ことばと文化 鈴木孝夫著 岩波書店



兼重 努 准教授
文化人類学



岡田 裕作 教授
泌尿器科学

- 平静の心：オスラー博士講演集
W. オスラー[述] 医学書院
- 解剖医ジョン・ハンターの数奇な生涯
W. ムーア著 矢野真千子訳 河出書房新社
- The Final Diagnosis
Arthur Hailey 著 Pan Books

- 夜と霧
V.E. フランクル著 霜山徳爾訳 みすず書房
- 聡明な女は料理がうまい
桐島洋子著 文藝春秋
- Conversations with Neil's Brain
W.H. Calvin, G.A. Ojemann 著 Addison-Wesley



宮松 直美 教授
臨床看護学(成人)



堀池 喜八郎 教授
分子生理化学
附属図書館長・
マルチメディアセンター長

新入生はこれからどっぷりと医学・生物学につかる。また新入生の半数以上は高校で物理を十分に履修していない。これらを踏まえて本を紹介する。

- 生物と無生物のあいだ
福岡伸一著 講談社
- できそこないの男たち
福岡伸一著 光文社
- 世界は分けてもわからない
福岡伸一著 講談社
- 利己的な遺伝子
R. ドーキンス著 紀伊國屋書店

- そんなバカな!
竹内久美子著 文芸春秋
- 物理の散歩道
ロゲルギスト著 岩波書店
- 新物理の散歩道
ロゲルギスト著 筑摩書房
- ブラウン運動
米沢富美子著 共立出版
- *だれが原子をみたか
江沢洋著 岩波書店

先生方からのご推薦コメントは、こちらをご覧ください。
http://www.shiga-med.ac.jp/library/suisen_comment.ppt



インフォメーション

平成21年度 卒業式

平成 21 年度本学卒業式は、去る 3 月 25 日(木) 午前 10 時から本学体育館において挙行され、学長から次のとおり告辞がありました。

告 辞

学 長 馬 場 忠 雄

平成 21 年度滋賀医科大学卒業式を挙行するにあたり、ご多忙の中ご列席を賜りましたご来賓の皆様、ご父兄の皆様ならびに教職員の皆様に御礼申し上げます。

本日晴れてご卒業の日を迎えられた医学科 102 名、看護学科 73 名の諸君に心よりお祝い申し上げます。また、諸君の学生生活を支えてこられたご家族の方々にお慶び申し上げます。

今年卒業を迎える医学科学生は、平成 16 年度の入学生であり、この年は国立大学から国立大学法人に移行した最初の年で、本学が法人として歩み出すにあたり、「地域に支えられ、世界に挑戦する大学」として第一期 6 年間の中期目標と計画を立て、年度毎に計画を遂行してきた法人化後の第一期生にあたります。国立大学法人とは、当時全国 89 の国立大学が、国の附属機関から独立した法人に移行し、各大学は学外者を入れた経営協議会を設置し、文部科学大臣が許可した一期 6 年間の中期計画に沿って大学を運営し、文部科学省の評価を受けるシステムで、まさに各大学の「自立」運営がスタートした年にあたります。しかし、大学運営を支える国からの運営費交付金は年 1% ずつ削減され、さらに、平成 17 年度から人件費 5 年間 5% 削減が課せられた厳しいものでした。

この状況にありながら、教職員のご努力による病院の活性化による収益増、また競争的研究費の獲得や各省庁の教育研究プロジェクトの採択、共同研究、さらには企業や皆様方からのご寄附などの外部資金の獲得、また学内では業務の効率化や一般管理費の削減など積極的な取り組みは、本学の発展を支えるものとなりました。そして、教育・研究・診療・管理運営の各分野にわたり、本学の特色を生かした取り組みは高い評価を得ることができました。

なかでも、国家試験の合格率 95% 以上を目指す目標値を掲げ、全国的にも注目されました。昨年の医師国家試験の合格率は 97% であり、近畿の医学部、医学大学のなかで 1 位、全国でも 6

位という成績でした。また、看護学科におきましても、看護師合格率 98.3% であり、全国平均 89.9% に比べ優秀な成績でした。保健師、助産師は 100% でした。本年の卒業生も良い成績をとって、6 年間の目標値を達成してくれるものと期待しています。

本年 1 月に、6 年間の大学の目標に対する達成状況の評価結果を受領しました。学生を含む本学全構成員のご協力により、86 国立大学法人のなかで、第 2 位という高い評価を受けることができました。本学の卒業生も本学で学んだことに対して自信をもっていただきたいと思います。

ところで、地域の公的病院の医師不足による医療の崩壊が大きな問題となっています。これには新臨床研修制度の導入や平成 16 年から続いてきた総医療費削減策など多くの要因が重なって生じてきたものと考えられます。

滋賀県内においても地域や診療科の医師の偏在が顕著にみられ、本学は地域基盤型教育の推進と卒後研修プログラムの改善や地域病院との連携の強化などに取り組んでいます。また、滋賀県は学生の奨学支援や寄附講座の設置など、地域医療の確保の観点から、積極的な政策で支援をいただいております。

平成 22 年度から、地域枠での入学定員 5 名の増が認められ、滋賀県から合計 10 名の奨学金の貸与が行われます。医師数の増加については、養成に 10 年以上を要するので、地域の医療や診療科の偏在については、短期的な政策と長期的な政策に分けて考える必要があります。単に量的に増やすのみでは、将来の医師過剰と質の低下をきたすことが危惧されております。したがって長期的ビジョンにそった慎重な対応を求めています。

さらに、平成 22 年度から地域医療再生計画のもとに滋賀県においても 2 医療圏において地域医療の再構築が行われます。本学は、東近江医療センターに県からの寄附講座である総合内科学講座と総合外科学講座を開設し、支援をすることに

なっております。医療の原点は、奉仕であります。しんどい、つらい、さびしいことの連続であると思いますが、卒業生諸君には、初心の志をもって医療の一員として活躍してくれることを期待しています。

医療においては、多くの病気に対して、全国どこでも、誰でも、同じ基準で医療が受けられるよう、診療のガイドラインやマニュアルが設けられています。しかし、個人個人で訴えや症状、また検査結果など少しずつ異なっています。今、個の医療（テーラーメイド医療）が重視されており、とくに薬の効き方や副作用の出現など、使用前にチェックすることも可能となっています。したがって、日常の診療においては、ただ漠然とガイドラインやマニュアルに頼って医療を行うのではなく、細心の観察力を持って、患者に接し、適切な対応を行うことにより、はじめて患者さんが満足する医療を提供できるのであります。

日本人の名前のついた世界に通用する病名はいくつかあります。私がロンドンのガイ医科大学に留学していたところに、全学的なカンファレンスがありました。その時、日本では聞きなれない橋本病が取り上げられました。橋本病は慢性甲状腺炎であり、今では自己免疫性疾患の一つで、自己抗体が甲状腺細胞を攻撃して発症するものです。中年の女性に多く、甲状腺がびまん性に腫脹する所見がみられ、甲状腺機能が低下し、体重増加、うつ状態などがみられます。

橋本はるか策氏は明治14年（1881）三重県阿山郡の医家の生まれで、第3高等学校から、後の九州大学に進み、卒後第一外科に入局しました。

その時、僅か4例の甲状腺腫例について、病理学的所見を詳細に検討したのであります。当時は勿論、免疫染色はできず、電子顕微鏡もありません。ただHE染色のみで、細胞の配列や異型度などから、線維性甲状腺、リンパ肉腫、結核、梅毒、ミックリッツ氏病などと鑑別し、甲状腺のリンパ節腫症的变化、Struma lymphomatosaとして、ドイツ学術雑誌（Archiv für klinische Chirurgie

97.219 - 248 1912）に発表したのであります。

その後、この論文は英米の研究者から注目、評価され、独立疾患として位置づけられたのであります。その後、橋本博士はドイツに留学、さらにロンドンでも研究を続けましたが、第一次世界大戦により帰国し、伊賀町において、5代目の院長として家業をついでおりられます。

橋本病の呼称が欧米で定着したのは、1934年、死後のことで、わが国では昭和30年代（1955年）になってからであります。橋本博士の業績は、日常臨床においても、個々の病む人を注意深く観察する感性と分析力と記録し発表することの大切さを教えています。

医学は、科学的根拠に基づいた事実を基盤として成り立っていますが、医療は、病む者と癒す者との間の人間関係が基本であります。すなわち、コミュニケーション、チーム医療が重要であり、このためには患者さんの立場にたった姿勢が求められます。

本学は、地域に支えられ信頼される医療人や世界に情報を発信する研究者の育成を目指し、開学以来36年を迎え、卒業生医学科2,807名、看護学科822名を送り出しております。先輩達は今日も医療の現場で、また、卒業生の29名が大学教授として大学の教育研究に活躍し、また、助産師や保健師として地域の保健活動など、幅広く活躍しています。

大学は在学中だけのものではなく、同窓生にとっても新しい知識や技術を提供するところであり、絶えず関連を持続してください。本学の卒業生としての自覚と自信や誇りを持って、本学の発展に貢献していただくことを希望します。法人化になって、大学と同窓生（湖医会）とのつながりは重要なものとなっており、諸君の活躍が本学の位置づけを高めるのであります。

結びに、諸君が入学時に提出していた決意書を卒業証書と共に本日手元にお返しします。初心を忘れることなく、志を高く持ち続け、その達成を目指し、「一隅を照らす」人として日々努力を重ねられること、また一人一人幸多からんことを祈念し、学長告辞といたします。

平成22年3月25日



平成21年度 学位論文学長賞等授与式

平成21年度に学位記(博士)(修士)を授与された者の中から、特に優秀な学位論文は発表した各1名に、3月25日(木)の学位授与式において馬場学長から表彰状と副賞が授与されました。

また、滋賀医科大学シンポジウムの各賞・ベストティーチャー賞・Doctor of the Year,2009の各賞の受賞者に表彰状と副賞が授与されました。

博士論文学長賞

受賞者名 藤田 琢也

論文題目 Inhibition of Transforming Growth Factor- β -Mediated Immunosuppression in Tumor-Draining Lymph Nodes Augments Antitumor Responses by Various Immunologic Cell Types (Cancer Research)
(腫瘍所属リンパ節における形質転換増殖因子ベータの機能阻害による抗腫瘍免疫応答の増強効果)

修士論文学長賞

受賞者名 二宮 早苗

論文題目 分娩経験のある女性の腹圧性尿失禁に対するサポート下着の応用



学長賞授与

博士課程 藤田 琢也

修士課程 二宮 早苗

ベストティーチャー賞

臨床看護学講座 准教授

岡山 久代

第26回 滋賀医科大学シンポジウムの各賞

若鮎賞 南 佳ほり

激励賞 米 丸 隼 平

審査員特別賞 Yanchenko Naralia

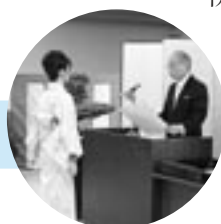
優秀研究者

病理学講座(疾患制御病理学部門) 准教授

伊藤 靖

Doctor of Year,2009

水野 文



名誉教授の称号授与

学校教育法第 106 条の規定により、滋賀医科大学名誉教授の称号が下記の両先生に授与されました。

平成 22 年 4 月 1 日 元教授 大久保 岩男

平成 22 年 4 月 1 日 元教授 木 村 宏

臨床心理士研修コース修了証書授与式

平成 22 年 3 月 4 日（木）に臨床心理実習生の修了証書授与式が執り行われ、3名の者に授与されました。これは平成 19 年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」において文部科学省より委託を受け、「再就職及びキャリアアップを可能にするための新しい実践的な臨床心理士研修コース」を本学精神医学講座山田教授の下で3年間におよび実施したものです。既に平成 19 年度には3名、20 年度には4名の者が修了しています。何れの実習生からも非常に有益であったとの評価を得ました。



足立美美

畑山ゆり

山本公美

第33回解剖体納骨慰霊法要

5月29日（土）午前10時30分から比叡山延暦寺阿弥陀堂において、ご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員および学生、教職員の約400名が参列し第33回解剖体納骨慰霊法要が厳粛に執り行われ、故人のご冥福をお祈りしました。

今回お祀りした41名の御霊及びご遺族に対し、馬場学長より感謝の意が述べられるとともに、学生に対し、「医学教育のために自らの身体を捧げて下さった御霊のことをいつまでも忘れることなく、信頼される医師や人々の幸せに貢献する医学研究者として“一隅を照らす人”に育ってくださることを期待しております。」と述べられました。

続いて、学生代表 住尾健太郎君が、ご献体してくださった方々をはじめ、多くのひとたちにさまざまな形で力を貸していただいている。そのことを肝に銘じ、思いにきちんと応える医師となり責任を全うすることをご霊前に誓いました。

法要終了後、引き続き文部科学大臣の感謝状がご遺族代表に贈呈されるとともに、学生の手でご遺骨が返還されました。

また、午後からは比叡山横川の大学霊安墓地において、ご遺族、ご来賓、学生等の参列の下に、納骨式が執り行われ、分骨いただいたご遺骨が納骨堂に安置されました。





SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE
勢多だより
JUN 30, 2010

編集後記

6月になりました。新入生は少しずつ大学に慣れて、講義の面白さや課外活動の楽しさを満喫しているころでしょう。卒業生は社会人1年生として、これまでとは違った責任の重さに戸惑いながらも専門職としての人生の輝かしいスタートを切ってくれたことと思います。

この号には学生の皆さんへの推薦図書が掲載されています。複数の先生方から推薦されているウィリアム・オスラー博士の講演集「平静の心」はちょうど皆さんの年齢のころに読みました。いまでも時々思い出すのは「平静の心を保つには、他人に多くを期待しないこと」という一文です。患者さんも学生の皆さんも、ひとりひとりの考えや大切なものを心に持って生活しています。教育や医療の場で、そうした個々の価値観を尊重することが後回しになってしまわないように気をつけたいものです。医学・看護学分野はもちろん、それ以外の分野も含め、学生生活の中で皆さんが多くの良書に触れて自身を豊かにしてくださることを願っています。

編集委員長 宮松 直美

（勢多だよりの由来）

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

（題字は、故 脇坂行一初代学長による）

勢多だより No.87

発行年月日：平成22年6月30日

編集：「勢多だより」編集担当者会議

発行：滋賀医科大学広報委員会



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。
「中心に向かって、外からさざ波の波動－これは人の医への期待である。外に向
かって中心から一隅を照らす光の波動－これは人々の期待に返す答えである」。